

めざす学校像・子ども像・教員像		課題	今後の改善方策
(1)めざす学校像 ①生徒が楽しく、存在感を実感できる学校 ②校舎が美しく、安心・安全な学校 ③基礎学力や「生きる力」を身につけさせ進路を保障する学校 ④地域と共に成長し、保護者・地域から信頼される学校 ○めざす生徒像 ①すすんで挨拶・掃除ができる生徒 ②目標をもち、学習や行事等に生徒同士団結し、真剣に取り組む生徒 ③差別を見抜き、差別を許さない、たくましい実践力のある生徒 ④自己有用感を高め、コミュニケーション力を培う生徒 ○めざす教師像 ①生徒にメリハリ(優しく・厳しく・温かく)をもって接する教職員 ②協調・協働の思いをもち、教育活動に励む教職員 ③課題意識をもち、職能成長をめざす教職員 ④保護者や地域社会との連携を密にし、信頼される教職員		学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・全教科で、学習過程に「学び合い」を取り入れ、全学級で授業公開及び協議会を行う。 ・家庭学習の定着につながる「箱崎ノート」の有効活用法の検討。
		不登校生徒の未然防止と解消	<ul style="list-style-type: none"> ・進路保障のための支援計画を生徒個々に作成する。 ・ステップルーム保護者会を計画し、計画的に開催する。 ・「すこやか」を有効活用して、小学校との連携を深める。
		活力のある生徒指導体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・より機能的、効果的な生徒指導組織の構築を図る。 ・生徒会を中心として、自治活動の活性化のための取り組みを行う。 ・啓発のための保護者を対象にした外部講師を招聘した講演会を開催する。
重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明	
○確かな学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・「学び合い」を全教科で取り入れ、全学級で授業公開を行う。(取組指標) 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学級、全教科で研修テーマに沿って、思考ツールを用いた学び合いの授業を行うことができた。 ・「箱崎ノート」の取り組みは教師、生徒ともに定着している。家庭学習尾の定着につながるように工夫が見られるノート等を拡大掲示する等の取組を行っている。 ・全学年それぞれのねらいをもって進路学習会を行うことができた。 ・標準偏差は、2ポイント弱の向上であった。各学力テストにおいては福岡市の平均点を超えることは出来ているが、学力の二極化が見られる。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・「箱崎ノート」を活用し、家庭学習の定着を図る。(成果指標:提出率95%以上) 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年で「進路説明会」を開催し、学力向上へ向けての意欲付けを行う。(取組指標) 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・学力テストにおいて、標準偏差を前年度より2ポイント向上させる。(成果指標) 		
○いじめ・不登校の未然防止・早期発見	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校生徒の進路保障のための支援計画を作成し、個に応じた支援を行う。(成果指標:前年度不登校生徒の3名復) 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度不登校生徒15名の内、13名の生徒が完全復帰または部分復帰を果たした。(復帰率:87%) ・3月にステップルーム保護者会を開催予定。 ・1回のケース会議実施。あわせて、必要に応じてSSWを通した各関係機関と連絡を密にしている。 ・いじめアンケートは毎月(100%)実施することができた。アンケートを利用して、生徒間のトラブルをいじめに発展する前に対応することができた。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画にステップルーム保護者会を計画し、実施する。(取組指標) 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月10日「いじめゼロの日」にいじめアンケートを実施し、いじめの早期発見を行う。(取組指標) 		
○基本的生活習慣の育成に徹底した生徒指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・組織体として全校生徒を全職員で育てる意識を持ち、機能的な生徒指導体制を確立する。(取組指標:全職員共通実) 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の情報の共有や対策の迅速化はおおむね達成することができた。登校指導や日常の見回りなどに対する教師の危機意識をもつ必要がある。 ・体育大会、クラスマッチ、合唱コンクールでは、生徒が主体的に練習に取り組み、そのことが人権学習や国際理解学習への取り組みにつながる事ができている。 ・年5回(暴力団追放講話、喫煙防止、薬物乱用防止、性教育講演会、ネットモラル講演会)の規範意識に関する講演会を実施することができた。ネットモラルの講演会では保護者にも参加を呼びかけることができた。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会を中心に箱中3大行事等を活用し、生徒主体の取り組みを推進する。(取組指標) 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識向上のための学期1回以上の外部講師を招聘した講演会を開催する。そのうち1回以上は、保護者参加型の講演会を行う。(取組指標) 		
0			
学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)			
授業参観においては、全体的に落ち着いた学習に取り組む教師も熱心に授業を行っている。教師の板書を見て生徒がノートをとるような一斉授業ではなく、ペアやグループでの活動を取り入れた授業に向けて研修を進めてほしい。一問一答の単なる知識の詰め込みではなく、正しい情報を整理して自分の意見をまとめて発表できる力がつくような授業を作り上げてほしい。特に卒業後の進路については、きちんとした学力をつけて進路保障を確実にしてほしい。			